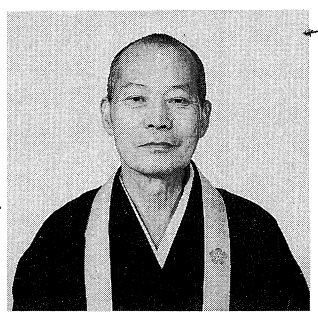


市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話 045(661)0166



検することが必要です。それは地道な歩みを目指すことになるでしょう。それにはしっかりとした展望を持つことですし、その展望とは私利、私欲をはなれて、客観的に

年頭挨拶
 謹賀新年 敬礼三宝 平成午歳

横浜市仏教連合会
 会長 柳下隆侃

昨年は諸大徳の協力を戴きまして諸行事を完遂することが出来篤く御礼申し上げます。
 本年は(平成)天皇陛下の即位の式典をはじめ、四月二十八日には横浜市仏教連合会改組再発足四十周年、横浜市釈尊奉讃会創立十周年記念祝賀大会の開催等々、明るい行事が重なっています。
 或る人の法話に、「新年に当たって今年はどうな希望や目標を立てようかと思いをめぐらせることでしよう。その希望や目標が本当に実現できるようになるものとするには、その可能な条件について点

とらえていくとき、本当の真実をみい出すことが出来ます。祈りはその希望や目標についてのご加護をお願いすることであり、そのことによって絶ゆまぬ努力の心を養っていくこととなります。祈りは人の心を清らかにし、いかなる困難にも屈しない忍耐の精神を育ててゆくことにもなります。祈り続けていくとき信仰は深まります。」とありました。
 私は横浜刑務所の新人集合教誨、釈尊教誨等々で、「忍の徳たるや、持戒、苦行も及ばず」と、いましめ育てられてきた話をしておりま

いと存じます。
 本年も大いなる希望と目標を持って、祖師及び社会の為に、とくには人間性の増幅と自己向上にむかって、祈りの日々と報恩謝徳の行を重ねていくにはありませぬか。
 最後に本年の祝賀記念大会が盛大に完遂出来ますよう諸大徳の御援助、御協力をお願い申し上げます。
 年頭のご挨拶と致します。
 本会名誉会長、大本山総持寺貫主、梅田信隆禪師より年頭の挨拶

す。どんなに戒律を学び、苦行をしようとも忍耐の忍、勤忍の忍、即ち耐えしのぶと共にゆるしてあげる温かい気持の此の一字がまもれなければ僧侶の資格はないし、一般の方々も生涯の伴(しあわせ)をつかみ、感謝の生活はあり得な

第十五回釈尊涅槃会要綱

- 一、日時 平成二年二月九日(火) 午後一時受付
 - 一、場所 「中田寺」 泉区中田町二〇五四 Tel 八〇二一四一五
 - 一、講師 土屋光道上人(大正大学講師)
 - 一、会費 無料(御香資はありがたく拝受いたします)
- ※ 随喜寺院は、黒略衣に絳子着用のこと。
 檀信徒の御同行をお願い申し上げます。

として色紙を頂戴致しました。市仏連の発展と会員諸師のご多幸とご健勝を祈念申しあげます。

迎春

横浜市仏教連合会
 名誉会長

- 顧問 梅田信隆
- 参与 志村慎吾
- 参与 福永隆昭
- 参与 横山敏明
- 参与 森山正城
- 会長 柳下隆侃
- 副会長 玄野孝善
- 専務理事 滝川覚道
- 會計 川上敬吾
- 内野公雄
- 事務研究委員長 斉藤隆法
- 会報担当 備前恭忍
- 監事 野沢隆幸
- 他 役員一同

新年の御挨拶

お願いを添えて

横浜市釈尊奉讃会

会長 宇野忠夫

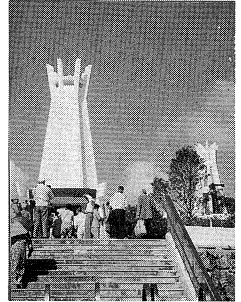
皆様明けましておめでとう存じます。皆様に於かれましては、いつも御元気で越年なされました御事と拝察欣快の至りに存じます。

平成の年も二年目を迎えることになり国民も更に気持を新たにすべく、この年がよい年でありませう心から祈念いたすものであります。今春は御即位の大典が執り行われまことと承っております。全国民一致して慶祝申し上げたく念ずる次第であります。

昨秋行われた市仏教会と私共釈尊奉讃会共催の沖繩参拝旅行は幸い天候にも恵まれて、大変有意義な旅でありました。戦跡の場所には今は立派な慰霊塔が建立されており、参加者一同打揃って参拝し御供養の法要もさせて頂き、まことに感銘深いものであります。丘上には各府県の慰霊の碑も建立されており、それぞれの地方からの多数の参拝者が見られました。「ひめゆりの塔」の前では多くの参拝者が、若くして散った乙女の霊前に涙して祈りを捧げて冥福を祈る姿も見られました。其他各戦跡を巡り、往年の熾烈な戦いを偲び多くの尊い犠牲があったればこそ、今日の平和の時代があるとしみじみと思い新たにす次第です。私共の今回の催

しには沖繩県仏教会役員の方各位も馳せつけて下さって激励を賜わったことは有難いことでした。今回の旅行は二泊三日の旅でありましたが私共は十二分に沖繩の蒼い空そして海、爛漫と咲いた南国の花更には民謡までも鑑賞させて頂きました。この企画にお骨折りを賜わった市仏教会の皆様、市奉讃会役員各位に対し深く謝意を表すものであります。

さて眼を外国に転じますと欧州に於ては、東欧の政変が日々大きくなり各関係国がいづれも騒然とした有様になってきました。この折にブッシュ大統領とゴルバチヨフ書記長が年末マルタ島で会話し、東西の平和を始め他の案件



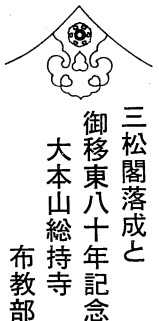
について膝を交えて話し合い、世界平和に向けて一歩も二歩も前進したような印象を世界中に与えたことは、年末に当たって特記すべき事件として報道されました。我が国では国民が等しく多年待望しております北方領土返還問題が雪解けの方向へと進んでいる様子を呈しておることが伝えられ、これは明るいニュースです。新年はこの問題が更に好転するよう希望されるわけです。

新年に当って私共市釈尊奉讃会として最も関心を持たねばならないことは、本年は横浜市仏連が四十周年に当り、これに対する記念行事執行のため関係方面に於かれては着々準備が進められていると承っております。私共の市釈尊奉讃会におきましても、是非このために出来るだけのご協力を致さねばならない次第です。また同時に本市釈尊奉讃会も十周年に当ることになりますので、相協力してプランの実施に遺憾なきを期したいと存じます。その節は会員各位のご協力を是非お願い申し上げます。以上、新年の御挨拶に併せてお願い申上げる次第であります。皆様のご健祥をお祈りして迎年の辞を終ります。

沖繩慰霊法要

啓白文

夫れ惟るに尼連禪河の浄水一度流れて亦還えらず。瀧液(せんぶく)の波は随縁真如の風に任せて大海に消え、金剛定の明月出でては清明皎々の光を放つと雖も亦遷流無常の掟を示し、不壊の妙身を以て有為転変の相を遺す。爰に第三次大戦に於て祖国日本の存亡、国民生活苦難克復の爲に一身を省ることなく、大義に殉ぜられたる諸英霊に追善供養の誠を捧ぐる為、横浜市仏教連合会再発足四十周年、横浜市釈尊奉讃会創立十周年を期して僧俗百三十有余人摩文仁ヶ丘(まぶにががおか)に來参し法筵を展ぶ。赤誠空しく敗戦の憂きめを味いたりとし雖も、諸氏の築かれたる礎は尊く、其の上に国民一致の努めとあいまって立派なる果実を稔らせ、世界各国が驚異の眼を以て瞻目せる日本国の発展と、当時では思いも及ばぬ豊かなる国民生活及び平和を享受したり。誰か奉謝せざらんや。本日現地戦跡を巡拝して経典を誦誦し平和親音和讃を奉詠、心より感謝と慰霊の詞を述べて冥福を祈念し奉る。願くは諸霊、我れ等が微志を納受せられ、今後とも祖国日本、並びに我れ等国民の上に慈眼を垂れ給わんことを。



大本山総持寺が能登の地より、鶴見ヶ丘に移東してより、平成二年は八十年の記念すべき年を迎えました。明治四十四年、伝道布教の本山として面目躍如たるものがありました。爾來八十年、歴代眞首の發願と全国門葉寺院、檀信徒の協力により、七堂伽藍悉く整備され総持学園、総持寺鶴見病院等、教育、社会事業も着々とその成果をあげておる処であります。

特に欧米の物質文明のみにてはその人生の満足感を得ること能はず東洋の精神文明を代表する禅思想と実践を体得するため、数多い外人の訪れがあります。

三松閣は、この様に、全国檀信徒や、訪れる外国の参禅者達のために建てられた研修道場であり、工費五十一億の巨費を投じて完成平成二年三月二十八日より三日間落慶式が挙行され、四月一日よりオープンとなります。又この年は御移東八十年の年として四月より十一月迄、いろいろな記念の行事が予定され、特に十月八日より三日間、記念法要が執り行われます。総持寺は太常濟大師の現身説法の道場であり、世界のすべての人に門戸を放っており、「世界に開く禅の苑(その)」、「流れの中に安らぎを」の二つを、この年のテーマとしております。

平成元年十一月七日
横浜市仏教連合会会長
柳下隆侃 敬白

迎春

祈法愛

横浜市仏教連合会参与

保土ヶ谷旭区仏教会副会長

臨濟宗建長寺派福聚寺住職

森 山 正 城

保土ヶ谷区岩井町五六
電話 七一一五五九四

横浜市仏教連合会常務理事

瀬谷区仏教会会長

曹洞宗徳善寺住職

尾 崎 正 憲

瀬谷区本郷三三三六一六
電話 三〇一〇一九二

横浜市仏教連合会長

真言宗智山派観音寺住職

柳 下 隆 侃

港北区篠原町二七七七
電話 四三一―一四三四

横浜市仏教連合会常務理事

栄区仏教会長

浄土宗大誓寺住職

塩 沢 栄 一

栄区小菅ヶ谷町二六一九
電話 八九一―三三四四

横浜市仏教連合会参与

神奈川県仏教会長

天台真盛宗新善光寺住職

福 永 隆 昭

南区三春台一三三
電話 二三一―五七五四

横浜市釈尊奉讃会会計

港北区仏教会事務局長

曹洞宗東照寺住職

程 木 徳 明

港北区綱島西一―三二一五
電話 五三一―一七八三

横浜市仏教連合会常務理事

泉区仏教会長

浄土宗中田寺住職

香 川 隆 善

泉区中田町二〇五四
電話 八〇二―一四一五

横浜市仏教連合会参与

曹洞宗西有寺住職

横 山 敏 明

中区大平町九六
電話 六六一―〇一六六

横浜市釈尊奉讃会長

宇 野 忠 夫

金沢区金沢町一
電話 七〇一―九三八三

横浜市仏教連合会副会長

保土ヶ谷旭区仏教会会計監査

曹洞宗長昌寺住職

玄 野 孝 善

旭区さちが丘五九
電話 三九一―一三七九

迎春

祈 法 愛

横浜市仏教連合会常務理事

保土ヶ谷旭区仏教会長

曹洞宗正観寺住職

善 浪 鉄 心

保土ヶ谷区東川島町四五
電話 三八一〇六八二

横浜市仏教連合会顧問弁護士

遠 藤 隆 也

東京都台東区東上野二一八一七
電話 〇三七八三二二八一九

横浜市仏教連合会常務理事

南・港南区仏教会長

日蓮宗常清寺住職

片 山 宣 英

南区清水ヶ丘二三一
電話 二三一八六六二

横浜市仏教連合会専務理事

臨濟宗建長寺派松蔭寺住職

川 上 敬 吾

鶴見区東寺尾一一八一一
電話 五七一七〇一

横浜市仏教連合会御用達

東海ビーエス観光株式会社社長

真 川 明

南区西中町一一九
電話 二四二七四三四

横浜市仏教連合会常務理事

神奈川区仏教会長

曹洞宗本覚寺住職

守 長 尚 文

神奈川区高島台一一二
電話 三二二〇一九一

横浜市仏教連合会会計監査

真言宗智山派正泉寺住職

野 沢 隆 幸

鶴見区生麦四一三一四
電話 五一一一五七五

横浜市仏教連合会常務理事

戸塚区仏教会長

臨濟宗円覚寺派高松寺住職

西 尾 俊 雄

戸塚区戸塚町四八六四
電話 八六一一三五二七

横浜市仏教連合会顧問

臨濟宗金滝院住職

志 村 慎 吾

金沢区瀬戸十一十二
電話 七〇一八八二三

横浜市仏教連合会会計

曹洞宗弘聖寺住職

内 野 公 雄

緑区台村五四九
電話 九三一二五二二

迎春

祈 法 愛

横浜市仏教連合会常務理事
金沢区仏教会長
真言宗宝珠院住職

佐 伯 隆 義

金沢区富岡東五八―一九
電話 七七一―五〇一三

横浜市仏教連合会常務理事
鶴見区仏教会長
浄土宗慶岸寺住職

林 田 祐 康

鶴見区生麦五―一三―六一
電話 五〇一―二八一六

横浜市仏教連合会常務理事
港北区仏教会長
曹洞宗保福寺住職

高 橋 哲 英

港北区日吉町二―二六―二
電話 〇四四―六一―二八八〇

横浜市仏教連合会常務理事
緑区仏教会長
真言宗福聚院住職

斉 藤 隆 法

緑区池辺町二二九六
電話 九四一―一三六六

横浜市仏教連合会常務理事
中区仏教会長
真言宗東福院住職

上 柳 毅 明

中区本牧荒井町六四
電話 六二三―八四一八

横浜市仏教連合会報担当
真言宗西福寺住職

備 前 恭 忍

瀬谷区橋戸三―二一―二
電話 三〇一―六一三四

横浜市仏教連合会副会長
磯子区仏教会長
真言宗海照寺住職

滝 川 覚 道

磯子区坂下町四―一九
電話 七五一―七一〇四

横浜市仏教連合会名誉会長
曹洞宗大本山総持寺管首

梅 田 信 隆

鶴見区鶴見二―一―一
電話 五八一―六〇二一

横浜市積尊奉讃会事務局長

藤 江 馨 山

保土ヶ谷区岩井町三二二
電話 七三一―一七九六

横浜市仏教連合会常務理事
西区仏教会長
天台宗円満寺住職

西 郊 良 光

西区久保町一三九
電話 二三一―四三三三

平成元年十一月七日から九日にかけて沖繩を訪問致しました。目的は戦没者への慰霊法要でありました。この地は日本国土で唯一の地上戦闘の場となった島であります。沖繩県援護課資料及び那覇市史によると日本軍戦没者一〇、〇〇〇人の内、本土出身兵六五、〇〇〇人、沖繩出身軍人、軍属四五、〇〇〇人。一般住民九四、〇〇〇人(戦闘協力者五〇、〇〇〇人)で、因みに、米軍戦死者は一、二、五二〇人となっています。数多くの戦跡を巡拝して、当時の状況を偲び衷心より御冥福を祈念申し上げます。

合掌

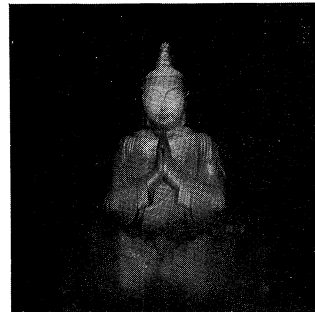
真福寺住職
松田 玄一

「合掌礼」の内容を御説明し、御供養と致します。

元来、この礼法は仏教の伝来(五三八年)と欽明天皇十三年(五五二)等に起源をもち(百済の聖明王が仏像経論を献じたこととされています)、インドで発生した「印相」であります。両手の指は「十界」にあてられ、左手の小指から順次、地獄界、餓鬼界、畜生界、阿修羅界、それに親指は人間界を、右手の小指からは天上来、声聞界、縁覚界、菩薩界、それに親指は仏界を表徴していると云われています。

合掌した心境は「右ほとけ、左おのれと 合わす手の なかにゆかしき 南無の一声」であります。合掌は高さにより、その礼拝の対象を異に致します。合掌した両

方の親指が額の上にある時は、ヒンズー教に於ける「天地創造の神・ブラーフマン神、維持存続の神・ビシュヌ神、それに破壊の神・シバ神」等に捧げ、指の先端が鼻の高さで肘は水平のそれは、釈尊はじめ菩薩、御先祖諸精霊に捧げ胸の高さでそれは対人関係、人と人との挨拶に使われます。その場合、印度では「ナマス、ティー」と申し、軽く会釈を致します。ナマスは帰依、尊敬、親睦を意味し、ティーは貴殿を意味します。従っ



て「わたしはあなたに帰依致します」となる訳です。

唐代の西遊記で有名な大訳経家の玄奘は竹林精舎(仏教最初の伽藍、マカド国王舎城の北方、釈尊とその弟子のためにビンピサラ王建立)の近くにあるナーランダの仏教大学へ三年遊学を致しました。貞観十九年(六四五)仏舎利、仏象、経巻六五七部をもたらして、長安に帰京し、太宗の信任を得て、弘福寺、慈恩寺を建立され玉華宮に於いて諸経論を翻訳、その時、ナマスを「南無」と音訳していま

事件にみる世相所感

当市仏連会顧問弁護士
連 藤 隆 也

平成元年を振り返って二つのことが思い返されます。その一つは、私の受任した離婚事件でこれまでも最高ですが、今後もないだろうと思われる八二才と七二才の老夫婦の離婚事件を取り扱ったことです。私の依頼者は七二才の老婦人でした。実は五年前前に一度相談を受け、その時は、「今更、離婚でもないでしょう。もう少し頑張るようにな」と説得したのです。その後三年程して、その老婦人が地下鉄に飛び込んで自殺を図り、幸い生命に別条はなかったのですが、それ程まで思い詰めているのならと今回は受任することにしたのです。相手方にも弁護士が付いて、仕事とはいいな

がら、お互いに自分の親達の離婚に立ち会っているような複雑な気持ちで話を進めました。原因は、男性の異常にケチな金銭感覚に、これ以上我慢出来ないということでしたが、国立大学教授をしている御子息も、両親の離婚は致し方ないとの意見で、調停離婚が成立しました。老婦人は、残り少ないからこそ自分の生活を大切にしたいとのこと、仏縁というものもあるようですが、夫婦の縁とは何か?、と考えさせられる事件でした。もう一つは、同業の弁護士一家が拉致された事件です。何者が犯人なのか、未だに判然としていませんが、マスコミ等の報道によると、某新興宗教団体が関与してい

支部だより

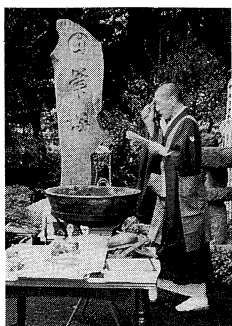
瀬谷区仏教会

寺院が種々の布教活動を通して、信者等の教化育成を図りつつあることは大であります。かつては寺子屋、人生相談、修行の道場として地域の文化の中心的存在であった。しかし私たちの近くは都市化の中で葬儀、年忌法事が多く、それに寺業的(営利事業的な運営という意味か?。編集部の注釈)になりつつありはしまいか。こうしたことを否定するわけではないが、一般市民の望む寺院の文化的、宗教的存在が薄れてはいないだろうか。当区においてもそうした中で、八福神信仰とそれに伴う秋の八福草を植えて一般市民の見学会や参拝者等に宗教的情操の育成につとめている。これも寺院としての大事な教化であろう。そうした活動の一つ二つを紹介したい。

宗川寺(井出教道住職)の境内に造られた「水琴窟(すいきんくつ)」は、昔には庭園づくりの名人達や茶道家の間で珍重されていたものの類の一種である。現今、

その名称も忘れられていて、実物も全く身近なものとはいえない。元々、宗川寺に在ったわけではないが、水琴窟を現代に、当地に見事に復活させたもので、カーン、カーンと響きを生じ、人に心の安らぎを与え、その風情を楽しむ人も多い。新しい名物、名処である。西福寺(備前恭忍住職)の「筆供養」は五年前に「筆塚」が建立され、毎年の文化の日に筆供養法要を営む。地区団体、檀徒をはじめ当区内外の皆さんによって集められた筆や鉛筆が全員での読経の後、お焚き上げを厳修し、参列者の焼香中に供養され、それから文化講演が持たれ多くの感銘を与えている。

徳善寺(尾崎正恵住職)の「秋まつり」。茶道団体の先生方の協力で九月中旬に催され、多くの皆さんが花を愛で、秋の花を哭する風情もまた一入(ひとしお)というものである。これは寺の建物や庭園の開放であり、和服姿の女性のお手前も秋のすがすがしさと共に美しい情趣として親しまれている。



支部だより

栄区仏教会

栄区は昭和六十一年十一月三日、戸塚区から分区分しました。戸塚区の南部に位置し、港南区・磯子区・金沢区そして鎌倉市に三方を囲まれていきます。

戸塚区仏教会時代、本郷班と呼ばれた栄区でも南部の地域は、横浜市内に編入された昭和十四年四月一日までは、相州鎌倉郡本郷村として運営されてきました。

このようなことで、当仏教会は横浜市の最南端、鎌倉市の出入口という谷間みたいな処です。ので、余りお馴染みではないかと思われ

ます。そこで市仏連会報第二十八号に「証菩提寺」、第二十九号に「玉泉寺」を紹介させて頂きました。号を追って十二ヶ寺の自己紹介をと思っています。

今回は「大誓寺」を書いてみます。戸塚仏教会時代には本郷班に属してありました浄土宗の寺院で、根岸線本郷台駅より徒歩十五分ぐらゐの処にあります。

鎌倉時代、時の執権北条泰時のお嬢さんが、その本郷台駅前の市街地住宅の辺りに住んでいて、お姫様を「小菅ヶ谷殿」と呼んだそう

で、これが大誓寺の在る小菅ヶ谷町という地名になったようです。旧小菅ヶ谷村の名主、梅沢与治右衛門勝国が、自分の先祖の菩提を弔うために、鎌倉岩瀬の大長寺第七世伝譽利玄上人を迎えて、承



五重相伝会
大長寺
大誓寺

応二年(一六五三)四月、開山されたと過去帳に記載されています。境内に立つ横浜市の「名木古木」に指定された樹齢四百年のザクロとサルスベリーの両木が、開山以来初めての開筵でありました。五重相伝」という大法要(昭和六十二年十一月二十日〜二十四日)を喜んで見送りました。(大誓寺小住 塩沢栄一 記)

鶴見区仏教会

鶴見区仏教婦人会は昭和二十四年に発足、既に四十年の活動歴を経ている。現会員は三十三名。

毎夏七月下旬、鶴見川の潮見橋橋畔で催している「灯籠流し」は区仏教会の協賛を頂き、夏の夜の風物詩となっている。

仏教会寺院住職による「川施餓鬼法要」の後、川面に浮かぶ数百個の灯籠に読経、数ヶ寺の詠唱講中の奉唱。潮見橋上、川岸に数百人の檀信徒、地元商店街の方々、街行く人達が流灯りに手を合わせ、水難者、新盆、三界万霊諸精霊への憶いを馳せている。

「灯籠流し」でご供養料として納めて下さった浄財の内、毎年「金拾万円」を横浜市の社会福祉

事業に寄付、昨年で連続九回、横浜市社会福祉大会で表彰されている事もこの際報告させて頂く。

緑区仏教会

秋の一泊仏跡参拝旅行
三十二名が参加
緑区仏教会(会長斉藤隆法)では、従来一日仏跡参拝であったが初めての試みとして千葉方面に一泊仏跡参拝を行った。

緑区各地区に集合、京葉道路を一路、清澄寺、鯛ノ浦、誕生寺へ誕生寺(日蓮宗)では内拝し、

又、日蓮誕生や寺の縁起のお話しがあり参加者一同熱心に耳を傾け夜は房給小湊に一泊、宗旨問わず歓談、なごやかな一夜であった。二日目房給フラワーライン、植物園を見学、日本寺を参拝の後、金谷からフェリーで久里浜に渡り無事帰路に着く。

泉区仏教会

来る平成二年二月九日、午後一時に泉区中田寺で横浜市仏教連合会主催の第十五回涅槃会を奉修することになった。泉区十二ヶ寺は一致協同で当番区の重責を果そうと準備に務めている。会場の中田寺の住職が泉区仏教会々長、香川隆善師である。中田寺は浄土宗で四百有餘年前に建立された。大きく立派な青銅ぶき屋根ののった本堂には阿弥陀如来を祀り、外陣は二百名余りが安座できる大広間で暖房器具を常設置。当日は区内東泉寺所蔵の涅槃図を拝借する。この掛軸には猫と燕が画かれ、珍ら

横浜市仏連再発足四十周年
横浜市釈尊奉讃会創立十周年

横浜市仏教連合会再発足四十周年
横浜市釈尊奉讃会創立十周年
記念大会事業実行要項

◎開催日時 平成二年四月二十八日(土・先勝) 午後一時受付

◎大会会場 明倫高等学校 保土ヶ谷区岩井町四四七番地 電話〇四五七三一一四三七(代)

◎JR横須賀線「保土ヶ谷駅」東口下車徒歩約八分

◎式典法要・午後一時半より 高野山真言宗僧侶、明倫高校女子生徒の参加奉仕にて

しい涅槃図で、天保時代の作品。講師には大正大学の先生で浄土宗関東ブロック布教師会会長を務められる東京芝の観智院住職・土屋光道師をお願い申し上げた。何んのおかまいもできないが三色の涅槃団子の供物をお土産にさしあげたいと思っている。区仏各寺院一同、誠心誠意努力をするつもりである。市仏連の皆様の御支援と多数の御来場をお願い申す。

交通案内・戸塚駅西口下車。長後行、上飯田行、下飯田行の三方面のどれにでも乗車。神中バスの中田停留所下車、右へ入る。徒歩五分で中田農協がある。その裏側が中田寺である。または小田急江ノ島線の長後駅で下車、駅前で戸塚行神中バスに乗り、中田バス停で下車し左へ入って、中田農協のそばが中田寺である。泉区中田町二〇五四。電話八〇二一一四一五

記念大会開催について

◎記念講演 講師 落語家・三遊亭円楽師匠(生家東京助六寺)

◎講演の後、祝宴を催す。式典法要、講演会の三部共会場は同校体育館で行う。

◎事業執行予算総額七〇三万円也。◎実行委員会役割担当名と補助者名の記。渉外担当班長・高橋哲英師、補助・港北区仏。受付担当班長・香川隆善師と加藤久一氏(奉讃会)、補助・泉区仏、磯子区仏、瀬谷区仏、BS観光会場担当班長・佐伯隆義師、補助・金沢区仏、保土ヶ谷・旭区仏、西区仏。高野山仏青、明倫高校。司会進行担当班長・善浪鉄心師、西尾良光師、滝川寛道師、尾崎正恵師。法務担当班長・上柳毅明師、補助・中区仏。賞典担当班長・林田祐康、補助・鶴見区仏。記念品担当班長・塩沢栄一師、補助・栄区仏。講演担当班長・守長尚文師、補助・神奈川区仏。祝宴担当班長・西尾俊雄師、補助・戸塚区仏。財務(会計)担当班長、斉藤隆法師、補助・内野師、藤江氏、監査・野沢隆幸師。勸募担当班長・内野公雄師、補助・緑区仏。全実行委員、事務局。記念誌ならびに記録担当班長・片山宣英師、補助・南区港南区仏、玄野程木、川上、備前、新居各師。総務担当班長・玄野孝善師、補助・内野、守長、程木、佐伯、川上、備前、野沢、各師。

横浜市仏教連合会再発足四十周年
横浜市釈尊奉讃会創立十周年

記念大会
実行委員会役員芳名

大会名誉会長	梅田信隆	実行委員	西郊良光
大会顧問	志村慎吾	局長	林田祐康
大会顧問	福永隆昭	事務局長	守長尚文
大会顧問	横山敏明	局長	善浪鉄心
大会顧問	森山正城	局長	玄野孝善
実行委員長	柳下隆侃	局長	内野公雄
実行副委員長	滝川覚道	局長	川上敬吾
実行副委員長	宇野忠夫	局長	野沢隆幸
実行委員	尾崎正恵	局長	備前恭忍
実行委員	香川隆善	局長	滝田東潤
実行委員	片山宣英	局長	程木徳明
実行委員	上柳毅明	局長	内田勲次郎
実行委員	斉藤隆法	局長	藤江邦介
実行委員	佐伯隆義	局長	荻正義
実行委員	塩沢栄一	局長	佐々木安秀
実行委員	高橋哲英	局長	加藤久一
実行委員	西尾俊雄	局長	順不同

春の仏跡参拝旅行

市仏連恒例の春の仏跡参拝も今年で第七回目となります。毎回、大好評で参加者も多い。今年の日帰りバス旅行は下記の通りです。

午歳によせて

平成二年(一九九〇年)は午歳。エトのウマに因み動物の馬が当てられる。有名童謡『お馬の親子』をきくたび、親子愛の讃歌であると思う。自然法爾の至福の愛情で結ばれる家族の絆は大切である。馬頭観音さまは仏教で祀る神仏である。恐怖の面相の頭に馬の姿を刻み、道路脇に石仏として安置することが日本では近世に流行

記

月日 平成二年六月十四日(木)
行先 高尾山薬王院 昭和天皇陵
会費 六千円前後

した。慈悲の大切さを強調する教化の実践に効果のある信仰を生み育てた。天馬が空を駆って疾走するような勢いにあやかれるかどうか。平素の仏道精進が肝要である。



馬頭観音

2・2・5	戸塚区仏教会
2・4・5	瀬谷区仏教会
2・6・5	緑区仏教会
2・10・5	南・港南区仏教会
2・11・5	神奈川区仏教会
3・2・5	西区仏教会

県慰霊堂奉仕当番表

1・9・25	市仏連発の発送
1・10・5	県慰霊堂奉仕 保土ヶ谷・旭区仏教会
1・10・17	常務理事会(大会実行委員会)の開催 於本覚寺
1・10・18	市仏連発の発送
1・10・26	大会総務委員会開催 於本覚寺、明倫学園
1・11・1	市仏連発の発送
1・11・5	県慰霊堂奉仕 鶴見区仏教会 連発発送
1・11・6	県仏の成道会に参列 於西有寺
1・8・26	三役会開催、事務引継 於観音寺
1・8・27	市仏連発の発送
1・9・1	会報第29号の編集
1・9・6	常務理事会開催 於西有寺
1・9・7	市仏連発の発送
1・9・18	大会総務委員会開催 於本覚寺
1・9・19	会報第29号発送配布
1・8・21	会報第29号の編集 於長昌寺
1・8・18	市仏連通連発送
1・8・18	会報第29号の編集
1・8・26	三役会開催、事務引継 於観音寺
1・11・17	大会実行委員会開催 於明倫高等学校
1・11・17	会報30号原稿依頼
1・11・18	市仏連発の発送
1・11・26	大会総務委員会開催 於本覚寺
1・12・12	市仏連・奉讃会合同理事会並忘年会 会報30号原稿切 市仏連参与者に大会顧問を委嘱
1・12・12	次年度市仏連役員選考委員会再開
1・12・22	市仏連名誉会長大本山総持寺管首梅田信隆禅師に大会名誉顧問を市仏連顧問志村慎吾師に大会顧問を委嘱
1・12・23	第一五回涅槃会準備を泉区仏教会と打合せ。於中田寺

事務 日 誌

編集後記

◎ 昨年の沖繩慰霊法要は釈尊奉讃会の程木師が事務局として行き届いた配慮と宇野会長、市仏の柳下会長、玄野副会長が各々指導力を発揮され、一三六名の大団参加が組めた。

- ◎ 沖繩戦の現場で合掌三昧の回向を申しあげた一行は、戦争と平和を自分自身の事として受けとめた。有意義であった。昨年末の理事会に市仏連参与の福永師、横山師、森山師が参加下さった。特に森山師は体調快復の様子で、出席者全員の顔も喜び満面だった。今年の五月総会で現執行部の任期が切れ、改選となる。中田寺香川隆善師を委員長とする役員選考委員会もすでに再開され、検討中である。
- ◎ 四月二十八日の記念大会を市内の約四三〇ヶ寺院と奉讃会の各会員の全員の協力、支援参加の姿勢で盛りあげ、大成功にして下さい。是非、宜しくご活動の程をお願い、期待する。
- ◎ 大会記念誌への情報、資料の提供等の原稿依頼を各位に、近々にお願ひ致すことになると思うが、ご協力下さい。
- ◎ 当会報に寄稿の諸師、特に総持寺様、松田師、遠藤氏。それに賀詞交換等の御協力の各位に御礼を申し上げます。
- ◎ 新専務理事の川上敬吾師は引き続き後、記念大会に向けての連続会議も無事こなされ、大活躍である。また大会事務局局長就任の玄野孝善師も精励努力を惜しまず責任を果たしている。
- ◎ 各区仏の会長が大会実行委員に就任され、一人一役を担当される。